

DO YOUR BEST

NO. 213

介護福祉士

2022.3発行

一般社団法人
福島県介護福祉士会
文責 小山田 米子

認定介護福祉士養成研修「Zoomでの講義を終えて」

県北方部 安齋 将人

2月12日、13日の認定介護福祉士養成研修は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、福島県介護福祉士会の研修としては初めてzoomでの講義開催となりました。

会場に行かず講義を受けられる点において、特に遠方から出席する受講生にとって移動することがなく、移動にかかる時間を考えることがないため、時間を有効活用できる点は大きく、様々な感染症流行時期でもリスクなく研修等に出席できることも大きなメリットと感じます。

講義の進行においては、講師の方がこまめに受講生に声をかけることによって、対面での講義と同じような感覚で受けることができたと感じています。

一つ課題をあげるとすれば、グループワークをする際のブレイクアウトルームの機能説明等を事前に説明する必要があったのではと思いました。不慣れな受講生が多いと思うので説明があればスムーズな運営ができたのではと感じています。しかし、全体を通して今回の研修は大変良かったと感じていて、今後も研修の内容によりますが、積極的にzoomを取り入れて開催することで、研修への参加率も増加するのではないかと感じました。

最後に、対応して下さった講師、会長ならびに事務局、お忙しい中ありがとうございました。

ケアリハビリ研修

今年度のケア・リハビリ研修会は、感染対策を考え、対面式の講義ではなく、オンデマンド方式を活用し、配信しました。研修に参加して頂いた方より、自分が可能な時間に動画を見ることができたことは良かったという言葉頂き、対面研修にはない意見や、新たな研修の在り方、進め方があると感じられました。

新年度からは、色々な研修の進め方、テーマを考えながら、開催していきたいと思えます。

倫理委員会

昨年11月母方の祖母が91歳で亡くなりました。祖母は足腰が弱くデイサービスやショートステイを利用しながら在宅で過ごし、最近では特養に入所していました。特養で体調を崩し最後は安らかに家族に看取られ亡くなりました。特養でとてもよくしてもらっていたと、介護していた叔父や母もとても感謝していました。

コロナ禍ということもあり葬儀は家族葬にて執り行いました。葬儀場の方も親切で個人を偲びながらゆっくりと過ごすことが出来ていました。通夜を行い翌日に火葬が行われました。その火葬場での出来事がとても不快であり残念でありました。火葬を担当してくれたのは50代ぐらいの男性の方でしたが、最初から無表情で説明が乏しい印象でした。

特に収骨の際の骨壺に遺骨を収める際も、無表情で説明や確認がないまま淡々と終了しました。私にはただの作業にしか感じませんでした。今回初めて収骨に参加した小学生や中学生のひ孫もいました。初めて経験する人に向けて儀式を執り行ってほしいと強く思いました。コロナ禍とはいえ遺族に対する説明や態度、礼儀作法は必要だろうと告別式の後、親族と話し合いました。最後に祖母に申し訳ない気持ちになってしまいました。

今回の件で改めて態度や礼儀に対して考える機会を得ました。施設での看取りなど職員は何度も経験しますが、そのご家族は1度きりであることを念頭におき丁寧な対応をこころがけていきたいです。介護の現場でもコロナを理由に不備や疎かにしていることはないか、点検や確認が必要であると実感しました。

一般社団法人 福島県介護福祉士会

〒963-0108 福島県郡山市笹川一丁目184-29 クレストハイツ184 102号室
FAX 024-943-1848 E-Mail jaccw_fukushima@ybb.ne.jp
ホームページ <http://www7b.ne.jp/~jaccw-fukushima/>

コロナ禍で、介護職だからこその体験エピソード



エピソード1: コロナ禍での新たな挑戦

コロナ禍で、どこの施設も以前の様に利用者様とご家族が面会できないという状況になりました。当施設には、元気な時には家に帰りたいと常に希望されていて、定期的にご自宅に戻られていた利用者様がいました。その利用者様が看取り期になられ、ユニット会議で「ご家族様からの強い希望もあり、一瞬でも、自宅に戻せないか！！」という議題が持ち上がりました。ユニット会議から看取り委員会に議題が上がり、介護職、看護職、栄養、機能訓練、医師、事務を巻き込んで多職種で話し合いが行われました。結果、「自宅に戻っていただく」という結果に。それから、介護、看護、事務(送迎担当)が連携を組み、送迎車に車椅子を積み込んで、自宅まで何度も伺い、利用者様になるべく負担を掛けないようにとシミュレーションを実施しました。前日まで雨模様が続き、当日はどうなるかと心配をしていましたが、嘘のように晴れ上がり、決行されました。感染対策をしっかり取りながら、近所の方も集まってくださいました。久々の面会に近所の方も大喜び。利用者様の大好きなスイカも準備されていて、施設では、ほとんど食事も召し上がらなかった状態なのに、その時は目を「パツ」と開いて、美味しそうに召し上がっていました。時間にして30分程度でしたが、多職種で連携し、利用者様とご家族の要望に応える事ができました。その方は亡くなられ、ご家族が退所手続きに来られた際に、自宅へ戻せたことについて感謝の言葉がいただけました。コロナ、コロナで動きはかなり制限されているが、介護職員として、その中でも出来ることを見つけ出し、利用者様のご希望に添えるようにしたいと、後の委員会での振り返りで発表がありました。

エピソード2: 大変なコロナ禍の状況だからこそのあつた人の想いの温かさ

昨年の新型コロナウイルス感染拡大の時期、老施協の依頼で、ある施設へ応援に行った時のことです。感染対策をしながら予防に神経を使い、保養施設に宿泊しながらの応援を6日間行いました。応援に行った施設でも感染者が出た同法人の施設へ職員が応援に行っていることで、残った職員もまともに休暇も取れない状況の中でも、全く施設のこと、そこで生活する利用者の状態を知らない状況の中で介護を行う私に対して、少しでも動きやすいようにする配慮や、来て頂いて有り難いと全職員の方に言ってもらった言葉がとても有り難く、人の想いの温かさを感じられる良い経験になりました。



県中地区 ご当地の魅力

春よ来い！ 桜を訪ねて

いい ところ いっぱい



如寶寺



麓山公園



安積国造神社



開成山大神宮



雪村桜



高柴デコ屋敷

編集後記

陽ざしが温かさを増してきましたが、先日犬と散歩中うぐいすの鳴き声を聞き(聞き間違いではないと思うのですが)確実に春が近づいていることを実感しました。まだまだコロナ禍で桜の下で宴会とはいかないものの、感染防止策を取ってその時期しか味わえない楽しみや気分転換ができればいいですね。ロシアによるウクライナ侵攻が激しさを増し悲惨な報道が毎日続っていますが、決して遠い国の出来事ではなく、戦争のない暮らしが当たり前ではないことを考えながら、今大変な状況に置かれている人々に関心を持ち続けていきたいと思えます。